

「高知県橋梁会 平成 25 年度 第 1 回研修会」報告

高知県橋梁会理事 西川 準二

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成 25 年度第 1 回研修会が、去る 2013 年 4 月 22 日(月)に、高知市本町にある高知会館の「白鳳の間」で開催された。

13 時からの研修会では、会員や関係企業による基準書改定要旨や新技術の紹介など 4 テーマについて講演を行った。新年度を迎え色々と忙しい時期にもかかわらず、参加者が過去最高の 113 名になり、開催直前に急遽会場を変更することとなった。

研修会の後、同会場で定例総会を開催し、その後会場を「飛鳥の間」に移して懇親会を開催した。

■研修会 (13 : 00～17 : 00)

研修会に先立ち右城会長より、「各団体が開催する講習会の参加人数が減少していく中、本日の研修会には過去最高の 110 名を上回る方が参加していただいた」「会員数は最も少ない 28 社から 39 社にまで増えた」「本日の講演は、いずれも技術者の身になる内容であるのでしっかり勉強して頂きたい」との開会の挨拶があった。(13:00～13:10)



右城会長による開会の挨拶

最初の講演は、ヒロセ(株)の水谷美登志氏から「新しい道路土工－擁壁工指針の解説」と題し、指針改定の詳しい説明があった。水谷氏は擁壁工指針改定分科会の委員であり、改定図書の執筆者でもある。

第 1～4 章では、基本方針や一般事項などに関する改訂箇所をピックアップし改定の留意事項を詳しく説明された。第 5 章では、コンクリート擁壁に関する土圧の考え方、地震の影響、斜面上基礎の考え方、各擁壁の適用に関する変更箇所について分かりやすく説明された。第 6 章では、補

強土が今回の改定で大きく取り上げられた理由や適用時の留意点などの説明があった。第 7 章の軽量材と第 8 章の維持管理では、適用条件や改定要旨について説明があった。

最後に、道路橋示方書の改定のうち、擁壁工に関する項目として、橋台背面アプローチ部の構造について説明があった。(13:10～14:40)



水谷美登志氏による講演

2 番目の講演は、ケミカルグラウト(株)の中川彰氏から「地盤改良における耐震・液状化対策」と題し、軟弱地盤対策工について工法概要や施工事例の紹介があった。

岸壁背面や建造物基礎(建物や石油タンク)の液状化対策では、施設利用や工作物への影響を避けるべく、やや離れた位置の作業拠点から遠隔操作による精度の高い施工事例の紹介があった。

また、岩崎弥太郎の生家の沈下抑制対策では、建物の地下にある狭隘な通路トンネル内での施工という非常に厳しい制約条件の下、超小型機械を使用した地盤改良工事の紹介があった。(14:50～15:30)



中川彰氏による講演

3 番目の講演は、中日本高速道路(株)の宮内秀敏氏と中日本高速技術マーケティング(株)の西岡幹雄氏から「NEXCO 中日本の橋梁技術の現状と課題」と題し、わが国の橋梁技術を先導している高速道路における橋梁技術の変遷や今後の維持管理のあり方などの説明があった。

橋梁技術では、コンクリート橋・鋼橋・複合橋の工法概要や技術開発の変遷、架設工法などの説明があった。

維持管理では、橋齢が 25~30 年を越えると損傷が急激に増加する傾向があり、NEXCO 中日本が管理する橋梁のうち約 6 割がこれに該当するとの報告があった。また、高齢化した橋梁での顕著な損傷や補修方法、今後の維持管理に向けた重点施策や新しい補修材料の紹介などがあった。(15:30~16:10)



宮内秀敏氏による講演



西岡幹雄氏による講演

4 番目の講演は、高野光二郎氏から「持続可能な国家づくり」と題し、今後の国づくりの基本概念について説明していただいた。

この 3 年間に高知県をくまなく周った結果、高知県内に課題が山積していること、過去最高レベルである今年の補正予算が景気回復の起爆剤となることを望んでいること、南海地震の莫大な損失額から見るとまだまだ不足していることなどを力説された。

また、今後は世界人口の増加から予想される食料不足を踏まえ食料の自給自足にもっと力を注ぐべきである、原発問題の現状を踏まえながら埋蔵されている新しいエネルギーの開発を推進していくべきであると説明された。(16:10~16:40)



高野光二郎氏による講演



熱心に聴講される参加者



活発に質問する参加者



西川理事による司会



右城会長，吉田副会長，西川会計による報告

最後に，吉田副会長から本日の講演者や参加者への謝辞，7月に予定している現場見学会，8月の研修会開催，講演内容の募集などの報告があり，研修会を閉会した。(16:40～16:45)



吉田副会長による閉会の挨拶



村田新理事による挨拶

■定例総会（16：50～17：15）

研修会終了後，同会場場で平成25年度の定例総会を開催した。正会員39社のうち26社の出席があった。

定例総会では，平成24年度の事業報告・収支決算報告・監査報告，平成25年度の事業計画・収支予算案，役員改選などの議題が満場一致で承認された。

役員改選では，ショーボンド建設(株)の松原高志氏の転勤に伴う清水敦史氏の監事就任，(株)ピーエス三菱高知営業所の村田敦氏の新理事が承認された。新入会員では，平成24年度以降に入会していただいたオイレス工業(株)，(株)タカチ測建，日特建設(株)高知営業所，(株)ヤマサの4社が紹介された。

■懇親会（17：30～19：30）

定例総会終了後、会場を飛鳥の間に移して懇親会を開催した。参加者は47名であった。

懇親会では講師の方々を招くとともに，遠路はるばる北海道札幌市より参加していただいたパシフィックコンサルタンツ(株)北海道支社長の上野次男氏(道路土工一擁壁工指針の改定委員、執筆者)に来賓の挨拶をいただいた。その後，西岡顧問による乾杯の音頭で宴会を開始した。



右城会長による開会の挨拶



上野次男氏の来賓の挨拶



歓談の様子



西岡顧問による乾杯の音頭



吉田副会長による中締め



歓談の様子



参加者全員による一本締め



歓談の様子

■あとなぎ

研修会の参加人数は、これまでは昭和 62 年に 100 名、平成 6 年に 105 名という記録が残っているが、今回は 113 名と 36 年間の歴史の中で最高人数を記録しました。

高知県橋梁会では、今後も多くの方々に参加していただけるよう研修内容を充実し、さらに会員会社も増えるよう有意義な研修会を開催していきたいと思っています。